

看護大通信

47



新潟県立看護大学

臨床看護学領域

助教 西方真弓

赤ちゃんとお母さんが互いに見つめ合う姿は、神聖で、ほほえましい光景ですね。

動物の赤ちゃんが、生まれてすぐにお母さんの

おっぱいを探し出し、吸っている姿を見たこと

がある方もいると思います。実は、人間の赤ちゃんも、この能力を持っています。生まれたばかりの赤ちゃんをお母さんの胸にしばらく置いておくと、赤ちゃんは、お母さんのおっぱいを探し始めます。そして、自らお母

さんの乳房の方へと動き出し、おっぱいを吸い始めるのです。この自ら吸い始めようとする行動が、母乳育児を成功させるために効果があると言われるています。

生まれたばかりの赤ちゃんとは、出産後のお母さん

との触れ合いを、早期接触と呼んでいます。赤ちゃんとお母さんの状態が共に安定している場合、生まれて一時間から二時間程度、赤ちゃんの肌とお母さんの肌とが触れあえる状態にしておくことが薦められています。

生まれたばかりの赤ちゃんに触れあう

お母さんが、わが子を包み込むように抱っこしている姿が、お

なかの袋で子育てをするカンガルーを連想するところから、カンガルーケアとも呼ばれています。最近では、多くの出産施設で早期接触を取り入れ、帝王切開で生まれた赤ちゃんにも、このケアを行うようになっていきます。

早期接触の効果としては、冒頭の母乳育児成功の基礎となる以外にも、肌と肌に触れあっていることで赤ちゃんの体温が低下しないこと、お母さんの肌との触れ合いを通して、赤ちゃんの免疫力が上がり感染予防につながるとも言われています。

ます。また、生まれてすぐにお母さんの胸に抱かれた赤ちゃんとは、ベッドにいる赤ちゃんとは、お母さんの胸に抱かれた赤ちゃんの方がほとんど泣きません。お母さんに包み込まれ抱かれている安心感から、赤ちゃんの眠りが深くなり、起きているときも穏やかになります。

しかし、早期接触やカンガルーケアができなくても大丈夫です。赤ちゃんに優しく語りかけ、そつと赤ちゃんの胸に手を当てるだけでも、赤ちゃんは、落ち着き安心感を得られるはずですよ。赤ちゃんとの早期接触を希望される方は、妊娠中から各施設のスタッフにご相談してみたいかがでしょうか。